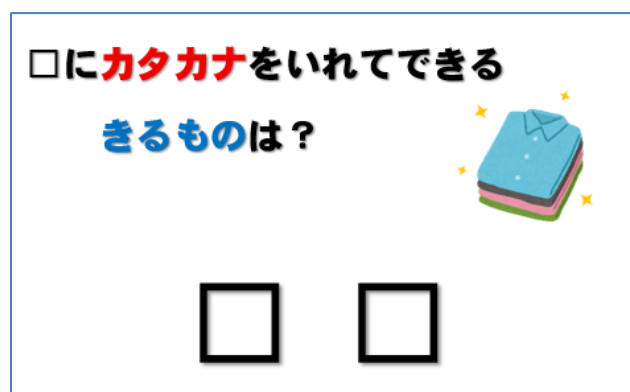


令和7年度1学期終業式 講話

■令和7年 7月17日 No.11「かな文字 4」

1学期も今日で終わりです。みなさん、ここまでよくがんばりましたね。色々なことがあったと思います。また後ほど各クラスで振り返ってみてください。明日から夏休みですが、何か困ったことがありましたら、学校へ連絡してくださいね。2学期は8月26日からです。みなさんの元気な顔と再会できることを楽しみにしております。

今週のいいところ見つけたよ(9)ですが、ある先生とこんな話をしていました。「最近、なぞときの答えやヒントをきかれなくなりました」と。そう、自分で考える人、みんなで考える人が増えたのだと思います。今週のなぞとき、



を4年生のお友だち4~5人で考えていました。○○かな一、△△とちゃうかと、みんなが自分の考えを言ってすり合わせていくうちに、どんどん正解に近づいていました。わからないからといって逃げるのではなく、わからなくても自分の考えを出して、友だちと聞き合っていくことの大切さを、この謎解きグループは教えてくれていました。

先週のお題「なぜ王様はもうすぐ雨がたくさん降るぞ」という予言ができたのかですが、今回もたくさんのお友だちが回答を書いてくれました。ありがとうございます。雲の動きや、においなどもありましたが、「雨や雲は西から動くからそれを利用した」という鋭い回答もありました。みんな正解です。あと、王様は星の動きを見て、そろそろ梅雨だぞとか、台風がくるぞということを予測し

ていたと思われます。

さて、牛の顔からアルファベットのA、山のかたちから山という漢字ができたというお話をここまでしてきました。それでは、ひらがなやカタカナはどうやって始まったのでしょうか？

このことを考える前に、言葉と文字の違いを確認しておこうと思います。この動物は？「イヌ」です。文字で書くと「いぬ」です。そう、言葉というのは、しゃべっているものなのです。では、言葉「イヌ」と文字の「いぬ」はどちらが先にうまれたのでしょうか？

このことは、人間の赤ちゃんが、言葉と文字どちらをさきに身に着けるかを考えるとわかります。そう、もちろん言葉の方がだんぜん早いのです。昔の日本人も言葉を先に使っていました。

こうして、日本には日本の言葉は昔からありましたが、文字は全くありませんでした。それが今から1700年ほど前、中国から仏教や手紙が日本に入ってきました。もちろん、中国のお手紙は全て漢字で書かれています。それでも、文字を知らなかった昔の日本字は、この漢字だらけの文字を「これは便利だ」と大変喜んでいました。

しかし、この漢字だらけの文字には少し不便なところがありました。なぜなら、日本の言葉も全て漢字であらわさないといけないからです。たとえば、この生き物、日本語では「イヌ」文字では「いぬ」ですが、中国語では「ゴウ」漢字では「狗」となります。イヌを何とか文字であらわしたいと考えたあるひとが、それぞれの言葉の音を漢字であらわすことを思いつきました。いぬの「い」は中国語で「伊」と書きます。また「ぬ」は「奴」と書きます。したがって、「いぬ」は「伊奴」と何とか書くことができました。しかし、意味がなく犬っぽくありません。(ちなみにこのように音にあてはめた日本語の文字を「万葉仮名」と言います。)そこで、さらにこの「伊奴」など漢字の一部を切り取って書きやすくした簡単バージョンを開発しました。伊奴はイヌとなりましたが、どこをきりと

ったかわかりますか？イは伊の左側、又は奴の右側ですね。これですいぶん書きやすく、わかりやすくなりました。これがカタカナの始まりです。では練習問題をしてみましょう。「宇江」はなんと書いてありますか？そう「ウエ」ですね。どこを切り取ったかわかりますか？続いては「加三」は何でしょう？これは「カミ」ですね。三を少し斜めにしたのですね。最後は「祢己」はどうか？これは「ネコ」です。どこを切り取ったかわかりますか。それでは、今週のお題です。

伊千加川機

於州加礼散末 天川之多

仁加川機加良毛

加尔八川天 伊機末之與宇

いったい何とかてあるでしょうか？

わかった人は校長先生に教えてください。

今日も最後まで聞いていただき、ありがとうございます。
ございました。良き夏休みをお過ごしください。